

令和 5 年 6 月 6 日現在

機関番号：24201  
研究種目：若手研究(B)  
研究期間：2017～2022  
課題番号：17K17545  
研究課題名（和文）発達障害児の外来受診に活用できる看護師と親の協働看護支援システムの開発および評価  
研究課題名（英文）Development and evaluation of a collaborative nursing support system for nurses and parents that can be used for outpatient care for children with developmental disabilities  
研究代表者  
玉川 あゆみ（TAMAGAWA, Ayumi）  
滋賀県立大学・人間看護学部・講師  
研究者番号：70732593  
交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,900,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、発達障害児の親が子どもの受診に特に困難を抱えている耳鼻咽喉科に焦点をあててケアガイドを作成した。まずは、先駆的に発達障害児の受診における支援が実施されている歯科診療の支援に関する文献検討を実施し、その結果を枠組みに耳鼻咽喉科診療における問題と支援に関するインタビュー調査を実施した。その結果、医療関係者が捉える発達障害児の抱える問題と支援方法を明らかにし、それらを基盤にケアガイドを作成した。作成したケアガイドの更なる洗練化のために発達障害児に携わっている医療関係者および発達障害児の親を対象とし、ヒアリング調査を実施した。その結果を基に追加修正し、ケアガイドを洗練化した。

#### 研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、発達障害児の耳鼻咽喉科診療を円滑に進めるために必要な知識と支援を集約したケアガイドを作成した。ケアガイドは、「子どもの障害特性の理解」「子どもと親への基本的な関わり」「診療の進め方」の3部構成とした。発達障害児の耳鼻咽喉科診療における支援は、これまで注目されてこなかった分野であり、耳鼻咽喉科診療を受ける発達障害児と親の診療の支援に寄与できるものとなった。また、この結果を基盤に全ての領域における発達障害児の医療機関受診時の支援を検討していく。

研究成果の概要（英文）：The aim of the present study was to develop a guide to best practices in otorhinolaryngology (ENT) for children with autism spectrum disorder (ASD). The study was conducted in the following 3 steps. In the first study, we performed a review of literature in the field of dentistry, which has pioneered the use of supportive strategies for children with ASD, to identify current issues and the various strategies used to provide dental care in children with ASD. In the second study, we conducted a semi-structured interview to identify current issues and supportive strategies used to help children with ASD undergo ENT procedures. Based on these results, the third study was performed to develop a best practice care guide for ENT professionals to facilitate provision of care to children with ASD who have trouble undergoing ENT procedures. The survey was conducted in healthcare providers involved in the treatment of children with ASD, as well as caregivers of ASD children.

研究分野：小児看護学

キーワード：発達障害児 自閉スペクトラム症児 耳鼻咽喉科診療 受診困難 ケアガイド

## 1. 研究開始当初の背景

文部科学省が2012年に実施した調査によると「知的発達に遅れはないものの学習面や行動面で著しい困難を示す児童生徒」の割合は6.5%と報告されており、その数は推計で60万人に上る。発達障害の障害特性には、コミュニケーションや、社会的相互作用の質的な障害、限定された興味や活動(こだわり、想像力の障害)などがある(平岩,2012)。また、慣れない場所に行くことや、急な予定の変更、感覚過敏によってパニックを起こしてしまう等の不適応行動が生活を困難にしている。

不適応行動があらわれやすい一つに外来受診がある(鈴木,2013;小室,2005;Souders,2000)。発達障害児にとって外来受診は、診療行為の意味や目的がわからないことが多く、不安や恐怖が増強する。また、苦痛を伴う処置を受けることも多く、パニックを引き起こすと自傷行為にまで至ることがある。その中でも、特に発達障害児の親が医療受診に困難感がある診療科は、耳鼻咽喉科である(坪見,2016)ことが報告されている。しかし、耳鼻咽喉科診療における支援に関する研究報告は国内外において見当たらず、早急に取り掛かるべき課題であると考えた。

## 2. 研究の目的

発達障害児が外来受診をした時に、看護師と親が協働して看護介入できるよう、アセスメントツールとケアガイドを基盤とした協働看護システムの開発を目的とした。

## 3. 研究の方法

第1段階として、耳鼻咽喉科診療時の支援を検討するために、発達障害児の診療における支援が先駆的に実施されている歯科診療での問題と支援について、国内外計17文献を検討した。

第2段階として、耳鼻咽喉科診療で発達障害児が抱える問題と支援について半構造化面接調査を実施した。

第3段階では、これまでの研究結果を踏まえて耳鼻咽喉科診療が苦手な発達障害児の診療をスムーズに進めるためのケアガイドを作成した。そのケアガイドの洗練化のために、発達障害児の診療に携わっている医療関係者および発達障害児の養育者を対象とし、ヒアリング調査を実施した。

## 4. 研究成果

- 1) 第1段階:「自閉症スペクトラム児の歯科診療における問題と支援に関する文献検討」では、国内外17文献を検討し、歯科診療における問題と支援内容が明らかになった。歯科診療における問題として、診察時に診察台に座れない、デンタルライトの点灯を嫌がる等の行動があげられた。このような行動に対する支援として、多様な行動療法が用いられていた。行動療法を用いた具体的な支援内容は、ビデオや絵カードなどの視覚的素材を用いた診察及び治療内容の説明、歯科診察を受けるための模擬練習や、診察場所をパーティションで区切ることで、患児の落ち着ける環境をつくること等があげられた。以上のことから、自閉症スペクトラム児の診察における支援では、行動療法を用いて、子どもの理解を促すための支援を基盤に検討していく必要性が示された。また、診療に対する説明等は、自閉スペクトラム症児の納得がいくまで繰り返し、個々のペースに合わせて少しずつ進めていくことで、診療に臨めるようになっていた。よって、診療終了までのステップを丁寧に支援していく必要があることが考えられた。これらのことを踏まえて、歯科診療における支援の段階を検討した結果、自宅、診療前、診療中、診療後の4段階で構成されていると考えた。

- 2) 第2段階:「自閉スペクトラム症児の耳鼻咽喉科診療における問題と支援」では、第1段階の研究結果で得た歯科診療時の支援の段階を基盤に、インタビュー調査を実施した。調査は、自閉スペクトラム症児が継続して通院する耳鼻咽喉科で自閉スペクトラム症児の診療に携わっている医療関係者19人を対象とし、インタビュー内容を質的記述的に分析した。

その結果、医療関係者が捉える自閉スペクトラム症児の耳鼻咽喉科診療における問題は、【感覚が過敏な部位への診療に対する脅威】、【ネガティブな体験による診療への拒絶】の2つのカテゴリが抽出された。自閉スペクトラム症児の耳鼻咽喉科診療における支援は、【診療を円滑に進めるための関係形成】、【自閉スペクトラム症児の主体性を支える診療】、【診療に対する適応への促し】の3つのカテゴリが抽出された。医療関係者は、自閉スペクトラム症児と親が耳鼻咽喉科診療に対するネガティブな体験による心的負担を抱えていることを理解する必要がある。その上で、自閉スペクトラム症児と親との関係性を積極的に築き、自閉スペクトラム症児が主体的に診療に臨めるよう支援する必要性が示唆された。

3) 第3段階:「自閉スペクトラム症児の耳鼻咽喉科診療を円滑に進めるためのケアガイドの作成」では、これまでの結果を踏まえて、耳鼻咽喉科受診が苦手な自閉スペクトラム症児の診療をスムーズに進めるためのケアガイドを作成した。ケアガイドは、第2研究の結果で導き出した【診療を円滑に進めるための関係形成】、【自閉スペクトラム症児の主体性を支える診療】、【診療に対する適応への促し】を基盤に、第1研究で明らかになった支援内容をふまえて、ケアガイドの構成と内容を検討した。ケアガイドは、「子どもの障害特性の理解」、「子どもと親への基本的な関わり方」、「診療の進め方」の3部構成で作成した。ケアガイドを作成後、さらなる洗練化のために自閉スペクトラム症児の診療に携わっている医療関係者および自閉スペクトラム症児の養育者を対象とし、ヒアリング調査を実施した。ヒアリング内容は、類似する意見をまとめて要約した。

その結果、ケアガイドに対する意見は、レイアウトの修正やケア内容の追加項目が挙げられた。また、耳鼻咽喉科診療時の頭部固定と自閉スペクトラム症児のパニック時における対応については、意見が二分したため、更なる検討の必要性を確認した。これらの追加修正を加え、ケアガイドの洗練化を図った。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 玉川あゆみ, 竹村淳子, 泊祐子	4. 巻 80
2. 論文標題 自閉スペクトラム症児の耳鼻咽喉科診療における問題と支援	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 小児保健研究	6. 最初と最後の頁 477-484
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 玉川あゆみ, 泊祐子	4. 巻 79
2. 論文標題 自閉症スペクトラム児の歯科診療における問題と支援に関する文献検討	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 小児保健研究	6. 最初と最後の頁 184-191
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 玉川あゆみ, 竹村淳子	4. 巻 13
2. 論文標題 自閉スペクトラム症児の耳鼻咽喉科診療を円滑に進めるためのケアガイドの作成	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 大阪医科薬科大学看護研究雑誌	6. 最初と最後の頁 78-89
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 玉川あゆみ, 泊祐子
2. 発表標題 自閉症スペクトラム児の耳鼻咽喉科診療における問題
3. 学会等名 小児保健研究学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 玉川あゆみ, 泊祐子
2. 発表標題 自閉症スペクトラム児の歯科診療における問題と支援に関する文献検討
3. 学会等名 日本看護研究学会第45回学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 玉川あゆみ, 竹村淳子
2. 発表標題 自閉スペクトラム症児の耳鼻咽喉科神慮うを円滑に進めるためのケアガイドの作成
3. 学会等名 日本看護科学学会第42回学術集会
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関